

「近代ヨーロッパにおける色彩版画技法に関する研究」

基礎教育課程 大森弦史 Genji Omori



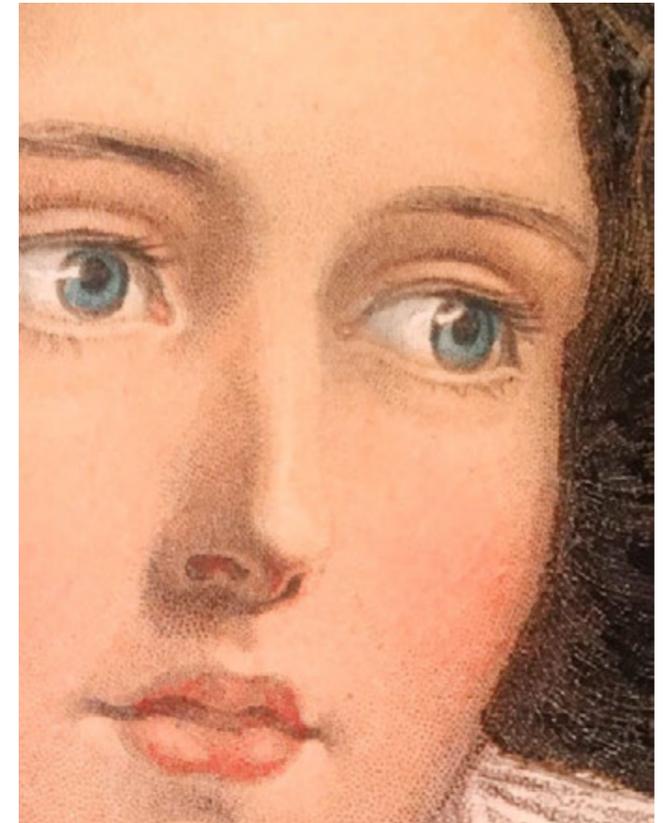
ジョージ・バクスターの肖像写真

本研究は、19世紀ヴィクトリア朝イギリスにおいて発展した、木口木版を用いた色彩版画技法に関するものである。特にジョージ・バクスター（George Baxter, 1804-1867）が1835年に特許取得した「バクスター法」から、1850年代前半にエドモンド・エヴァンズ（Edmund Evans, 1826-1905）らが実用化した「カラー木口木版」への技法的・様式的展開に焦点を当てた。

詳細な文献調査と、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館（V&A美術館）において実施した作品調査を通じて、バクスター法とカラー木口木版は技法的にもその結果としての表現効果の面でも全く異質であること、また従来言われてきたように、両技法は「親子」関係ではなく、「兄弟」関係にあったことがわかった。



バクスター、《恋人たちのポスト》、1856年、バクスター法、37.3 x 26.8 cm、V&A美術館



専門は西洋美術史。特に19世紀フランスおよびイギリスにおける版画・諷刺画について包括的に研究している。また美術史的観点から、それらの現代のメディア芸術への影響についても考察を試みている。



ケイト・グリーナウェイ原画、エヴァンズ彫版、《しゃぼん玉》、1887年、カラー木口木版、12.4 x 10.0 cm、V&A美術館

